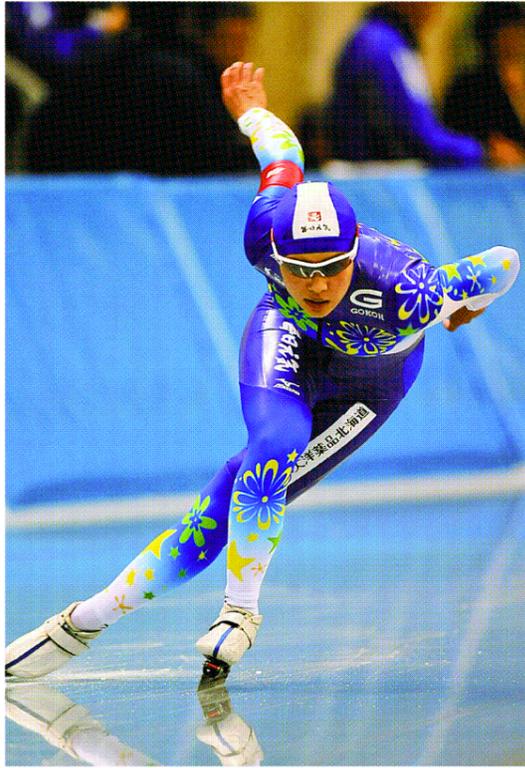


神谷2位 女子500進3位

【長野】ワールドカップの代表選考会を兼ねた第20回全日本距離別選手権(日本スケート連盟)が、26日午前、長野市南商高出が、従来の国内最高記録を約0・2秒上回る1分58秒70のタイムで男子の500メートルを行った。女子の十勝勢は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)が2本合計16秒76で2位、辻麻希(開西病院)が3位となった。小平奈緒(相澤病院)は2本とも圧勝し、5連覇を達成した。男子は1回目トップの長島圭一郎(日本電産サンキョー)白大、池田高出)が、2本目でフライングのため失格。及川佑(大和ハウス工業)山梨学院大、池田高出)が2位、羽賀亮平(日本電産サンキョー)白大、白樺学園高出)3位となった。優勝の加藤宗治(日本電産サンキョー)は2連覇。25日の第1

全日本距離別スケート

男子 及川2位、羽賀3位



【女子500 1回目】スピードに乗って第1コーナーに入る神谷衣理那



【男子500 2回とも2位につける安定した滑りを見せる及川佑

スタート好調 十勝勢表彰台 女子500

○女子500は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)、辻麻希(開西病院)の十勝勢がそろって表彰台を獲得した。神谷は、最初の100メートルを素直にたてた。しかも、今大会までは調子を落としていたが、1本目の100メートルで出場者中最速の10秒46を出せたことで、明るい表情。「トライアルから小平(奈緒)相澤病院)がはずれていたが、想定内。年内に2人で小平をつぶして、ワッシャーをとりにかかろう」と、神谷の順位を素直にたてた。

が速いけど練習してきたことと、スタートダッシュが良くなった。年上の辻は、このところ神谷に勝つていなかったし、来るだろうなと思っていた」と、神谷の順位を素直にたてた。

○大学1年目の高木美帆(日体大)帯南商高出)は、得意の1500メートルで失速。昨年この大会2位時のタイムを上回ったが、6位に終わった。今季は「技術的アプローチの前に、お尻回りなど体のコアから力を出すことを強調して練習してきた(青柳監督)という。今レースは700メートルまでそのような滑りができれば目標達成だったが、「最初の300メートルで、五輪シーズンを甘く見ていたのかな。最後の1周を頑張れなかった」と反省をこぼした。

○女子1500は、松田自己ベストも5位に終わり、「もう少しいいかな」と残念があった。いつもは直線を10歩でいくところ、この日はスケートが滑ったため8歩でいったという。しかしその分、反動が出た。乗りすぎてしまった」とリズムを崩し、終盤に失速。同走の高木菜那(日本電産サンキョー)帯南商高出)に逆転を許した。5位はワールドカップ代表には微妙な位置。「最終日の1000で表彰台に立つて、確実にしたい」と、気合をみなぎらせた。

○女子500は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)、辻麻希(開西病院)の十勝勢がそろって表彰台を獲得した。神谷は、最初の100メートルを素直にたてた。しかも、今大会までは調子を落としていたが、1本目の100メートルで出場者中最速の10秒46を出せたことで、明るい表情。「トライアルから小平(奈緒)相澤病院)がはずれていたが、想定内。年内に2人で小平をつぶして、ワッシャーをとりにかかろう」と、神谷の順位を素直にたてた。

○女子1500は、松田自己ベストも5位に終わり、「もう少しいいかな」と残念があった。いつもは直線を10歩でいくところ、この日はスケートが滑ったため8歩でいったという。しかしその分、反動が出た。乗りすぎてしまった」とリズムを崩し、終盤に失速。同走の高木菜那(日本電産サンキョー)帯南商高出)に逆転を許した。5位はワールドカップ代表には微妙な位置。「最終日の1000で表彰台に立つて、確実にしたい」と、気合をみなぎらせた。

○女子500は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)、辻麻希(開西病院)の十勝勢がそろって表彰台を獲得した。神谷は、最初の100メートルを素直にたてた。しかも、今大会までは調子を落としていたが、1本目の100メートルで出場者中最速の10秒46を出せたことで、明るい表情。「トライアルから小平(奈緒)相澤病院)がはずれていたが、想定内。年内に2人で小平をつぶして、ワッシャーをとりにかかろう」と、神谷の順位を素直にたてた。

○女子1500は、松田自己ベストも5位に終わり、「もう少しいいかな」と残念があった。いつもは直線を10歩でいくところ、この日はスケートが滑ったため8歩でいったという。しかしその分、反動が出た。乗りすぎてしまった」とリズムを崩し、終盤に失速。同走の高木菜那(日本電産サンキョー)帯南商高出)に逆転を許した。5位はワールドカップ代表には微妙な位置。「最終日の1000で表彰台に立つて、確実にしたい」と、気合をみなぎらせた。



【女子1500 3位に入賞しリンクサイドで関係者と喜び合う高木菜那

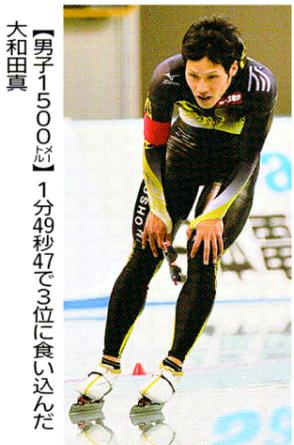
高木菜那の五輪出場をうかがうシーズンは、この上ない滑り出しとなった。従来の国内最高記録を更新するタイムで、初のワールドカップ代表も手に入れた。「やっと(日本電産の選手と一緒に)行けるんだ、チームの一員になれたと思う。また一言を弾ませた。夏場のトレーニングが充実していた。基礎的な体力が上がり、余裕ができたことで、意味を考えながら練習できたのが大きかった。一階段上がるのも、自転車が、155センチの小柄な体が、ひと安心しました」と、高木菜那は笑顔で話した。

高木菜那の五輪出場をうかがうシーズンは、この上ない滑り出しとなった。従来の国内最高記録を更新するタイムで、初のワールドカップ代表も手に入れた。「やっと(日本電産の選手と一緒に)行けるんだ、チームの一員になれたと思う。また一言を弾ませた。夏場のトレーニングが充実していた。基礎的な体力が上がり、余裕ができたことで、意味を考えながら練習できたのが大きかった。一階段上がるのも、自転車が、155センチの小柄な体が、ひと安心しました」と、高木菜那は笑顔で話した。

高木菜那の五輪出場をうかがうシーズンは、この上ない滑り出しとなった。従来の国内最高記録を更新するタイムで、初のワールドカップ代表も手に入れた。「やっと(日本電産の選手と一緒に)行けるんだ、チームの一員になれたと思う。また一言を弾ませた。夏場のトレーニングが充実していた。基礎的な体力が上がり、余裕ができたことで、意味を考えながら練習できたのが大きかった。一階段上がるのも、自転車が、155センチの小柄な体が、ひと安心しました」と、高木菜那は笑顔で話した。

高木菜那の五輪出場をうかがうシーズンは、この上ない滑り出しとなった。従来の国内最高記録を更新するタイムで、初のワールドカップ代表も手に入れた。「やっと(日本電産の選手と一緒に)行けるんだ、チームの一員になれたと思う。また一言を弾ませた。夏場のトレーニングが充実していた。基礎的な体力が上がり、余裕ができたことで、意味を考えながら練習できたのが大きかった。一階段上がるのも、自転車が、155センチの小柄な体が、ひと安心しました」と、高木菜那は笑顔で話した。

高木菜那の五輪出場をうかがうシーズンは、この上ない滑り出しとなった。従来の国内最高記録を更新するタイムで、初のワールドカップ代表も手に入れた。「やっと(日本電産の選手と一緒に)行けるんだ、チームの一員になれたと思う。また一言を弾ませた。夏場のトレーニングが充実していた。基礎的な体力が上がり、余裕ができたことで、意味を考えながら練習できたのが大きかった。一階段上がるのも、自転車が、155センチの小柄な体が、ひと安心しました」と、高木菜那は笑顔で話した。



【男子1500 2回とも2位につける安定した滑りを見せる大和田真

○女子500は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)、辻麻希(開西病院)の十勝勢がそろって表彰台を獲得した。神谷は、最初の100メートルを素直にたてた。しかも、今大会までは調子を落としていたが、1本目の100メートルで出場者中最速の10秒46を出せたことで、明るい表情。「トライアルから小平(奈緒)相澤病院)がはずれていたが、想定内。年内に2人で小平をつぶして、ワッシャーをとりにかかろう」と、神谷の順位を素直にたてた。

○女子1500は、松田自己ベストも5位に終わり、「もう少しいいかな」と残念があった。いつもは直線を10歩でいくところ、この日はスケートが滑ったため8歩でいったという。しかしその分、反動が出た。乗りすぎてしまった」とリズムを崩し、終盤に失速。同走の高木菜那(日本電産サンキョー)帯南商高出)に逆転を許した。5位はワールドカップ代表には微妙な位置。「最終日の1000で表彰台に立つて、確実にしたい」と、気合をみなぎらせた。

○女子500は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)、辻麻希(開西病院)の十勝勢がそろって表彰台を獲得した。神谷は、最初の100メートルを素直にたてた。しかも、今大会までは調子を落としていたが、1本目の100メートルで出場者中最速の10秒46を出せたことで、明るい表情。「トライアルから小平(奈緒)相澤病院)がはずれていたが、想定内。年内に2人で小平をつぶして、ワッシャーをとりにかかろう」と、神谷の順位を素直にたてた。

○女子1500は、松田自己ベストも5位に終わり、「もう少しいいかな」と残念があった。いつもは直線を10歩でいくところ、この日はスケートが滑ったため8歩でいったという。しかしその分、反動が出た。乗りすぎてしまった」とリズムを崩し、終盤に失速。同走の高木菜那(日本電産サンキョー)帯南商高出)に逆転を許した。5位はワールドカップ代表には微妙な位置。「最終日の1000で表彰台に立つて、確実にしたい」と、気合をみなぎらせた。

○女子500は、神谷衣理那(毎日元氣)白樺学園高出)、辻麻希(開西病院)の十勝勢がそろって表彰台を獲得した。神谷は、最初の100メートルを素直にたてた。しかも、今大会までは調子を落としていたが、1本目の100メートルで出場者中最速の10秒46を出せたことで、明るい表情。「トライアルから小平(奈緒)相澤病院)がはずれていたが、想定内。年内に2人で小平をつぶして、ワッシャーをとりにかかろう」と、神谷の順位を素直にたてた。